

特集 3 鳥獣害対策について

増加する農林産物への鳥獣被害に対して、市ではワイヤーメッシュ柵や金網柵の整備に助成しています。加えて電気柵等を設置して、イノシシなどの被害対策を講じていますが、依然として各地で被害が発生しており、営農意欲の低下を引き起こしています。

これらの被害を軽減するためには、集落や地域ぐるみで対策を実施することが重要です。そこで、集落ぐるみで鳥獣被害対策を実施する集落等をモデル的に支援し、その成果を他地域に普及させ、鳥獣被害防止対策の強化を図ります。

また各地区でのイノシシの処分が年々増加しているため、捕獲されたイノシシの火葬を県内のペットの葬儀業者にモデル的に外部委託することにより、地元で捕獲されたイノシシの埋設場所の確保及びその労力確保の負担軽減を図ります。

委員会からは、狩猟免許を持つ人をもっと増やすことが必要だと言う意見が出されました。



電気柵を潜るイノシシ

特集 4 企業誘致について

企業誘致対策として、実際の誘致活動をしている産業支援コーディネーターの活動内容は、週1回勤務で、産業支援室の職員とともに企業訪問活動を行っている。訪問活動を通じて企業の状況を聴取する中で、企業へは助成制度の提案、市に対しては企業の意見を反映した各種事業の見直しの提案とともに、空き工場の問い合わせに対して金融機関を通じての物件情報の提供などを行っているとのことです。

企業誘致が進まない中で、「製造業以外のサービス産業にかかる企業誘致も考えてはどうか」という委員の提案に、理事者は、「工業振興条例を企業振興条例に名称を改め、対象業種を拡大し、いろいろな業種を取り入れる内容に改正した」と答えました。

企業訪問をしていて、誘致を断られる理由としては、すぐに提供できる土地、積雪、必要な雇用者の確保などという問題があるようです。その対策として、土地の問題に対しては、「昨年、大規模用地取得の場合の助成を設けたが、今回、相続等の事務手続きを考慮し、指定申請から操業開始までの期間を3年から5年まで延長できるよう条例改正を行った」とのことです。

「勝山出身者の人脈を使っての企業誘致、関西勝山会や東京勝山会での誘致はどのようにしているのか」という質問に対して理事者は、「関西勝山会や東京勝山会との連携はしっかりやっている。さらに、大野・勝山出身者で組織する東京奥越経済同友会とも連携している」と答えました。

さらに、「ふるさと納税されている人や勝山出身の大学の先生の教え子などいろいろ探って情報交換してほしい」という意見などがありました。



福井県勝山市
ガンバル企業2014